

サダマイマイ、関 希美

わいるとらいふ

Wildlife

No.27

2012年6月15日

NPO法人 宮崎野生動物研究会

Miyazaki Wildlife Research Group

アカウミガメの上陸・産卵シーズン到来!!

アカウミガメの調査が始まりました。賛助会員の皆様に、アカウミガメの調査概要について説明します。

調査期間

5月20日から8月10日までの約80日間

穏やかな天気の日ばかりではありません。梅雨・台風の時期にも重なるので、雨・風に打たれながらの調査もあります。

また、海が荒れると海岸を歩くことができませんので、調査を中止にすることもあります。

調査方法

- 1 調査用具を持ち、海岸を歩いて足跡や産卵の跡を探します。
- 2 足跡を発見したら、産卵しているかどうかを調べます。産卵した跡があれば、刺し棒（ゴルフクラブを改良した物）を使って、実際に卵を確認します。
- 3 杭（竹棒）に、卵が確認できた場合には「産卵」、確認できなかった場合は「戻り」と記入し、その場に立てます。
- 4 産卵中のカメに遭遇したら、産卵を見届けてから、カメの身体測定を行います。

調査場所

高鍋町・新富町・宮崎市の9海岸



○堀之内、大炊田、明神山、住吉海岸

→毎日、21時から深夜に調査

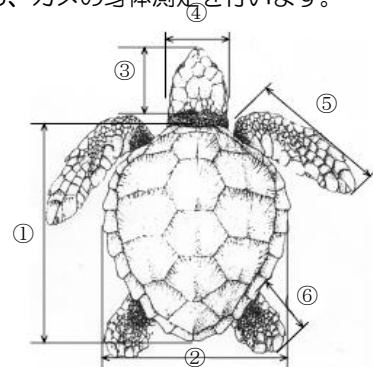
○新富海岸 → 毎日、早朝に調査

○一ツ葉海岸 → 週に2回、昼間に調査

○松崎、運動公園、こどものくに海岸

→週に4回、21時から深夜に調査

○白浜海岸 → 週に1回



※主な計測箇所は、①甲長②甲幅③頭長④頭幅⑤前肢長⑥後肢長です。他にも甲羅の高さや周囲を計測します。

5 身体測定後、カメの肢に標識を取り付けます。

6 荒波等で卵が流出するおそれのある場合は、卵を安全な場所に移植します。同時に卵数等も確認します。なお、県指定天然記念物のため移植には許可が必要となります。

7 上陸場所の位置（GPS データ）や環境などを記録します。

山田 真太郎

カモシカ調査 経過報告

宮崎野生動物研究会では、昨年度より県教育委員会の委託を受けカモシカ特別調査を実施しております。今回のカモシカ特別調査は4回目の特別調査となり（これまでの特別調査の詳細な経緯はわいるどらいふ23号をご参照下さい）、第3回特別調査で大きく減少していた推定生息頭数がどう変化しているのか、また増加しているニホンジカとのエサの競合の結果、生息域がどう変化しているのかなどを解明し、今後の保護管理政策の検討材料をとりまとめることを目的として行われています。

平成23年度は9月から12月にかけて、宮崎県中部にあたる西都市、小林市、国富町、綾町、西米良村、木城町、都農町、川南町、日向市で調査を実施しました。毎回の調査には12名から20名の調査員が参加し、民宿に泊まりながら調査地を転戦します。

調査員は第1回特別調査からこれまでずっと参加しているカモシカ調査のプロのような方から、今回初めて調査に参加したやる気満々の若者まで、老若男女のメンバーです。全員がカモシカの生息痕（主に糞です）を求めて、急峻な岩場をよじ登りながら、調査を行いました。



急峻な岩場を登る調査隊

山ではヤマビルやダニと戦いながらの調査となりましたが、カモシカの糞塊を見つけたときの喜びは格別です！糞塊を発見した調査員は、見つけた喜びを押し殺し、平静を装いながら無線で「カモシカの糞を発見で～す」と他の

調査員に報告します。そして他の調査員はその無線を聞いて「先を越された～」と内心思いながら、自分の周辺にも糞塊が落ちていないか、必死になって探し始めます。



発見したカモシカの糞塊

そして、夜は民宿に戻り、持ち帰ったカモシカの糞塊の糞粒数えが待っています。大きな糞塊になると糞粒数が500粒を越える場合もあり、このような糞塊を持ち帰った調査員は、発見したときの様子を他の調査員に声高らかに語ることができ、一夜にして英雄になるのです！（大げさですが）



民宿でカモシカの糞を数える調査員

今年度は宮崎県北部の延岡市、日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町、椎葉村、日向市美郷町でカモシカ調査を行う予定です。大分県と熊本県でもこのような調査が行われていますので、この2年間の調査で宮崎県を含めた九州におけるカモシカの生息状況が明らかになり、将来の保護管理のための基礎資料になればと思います。

岩切 康二

ニシキヘビのハンスト

ニシキヘビが脱走した事件がありました。幸いにして数日後に草むらで眠っているところを見つけられ、無事捕獲され一見落ち着となったことが、テレビで報道されていました。私もどうなることかと心配していました。ニシキヘビに毒は無いというものの、熱い夏場に彼らがジャングルを思い出しばれるのではないかと。あの大きなニシキヘビを捕らえるには、大人が数人必要です。それでもうっかり巻き付かれたりでもしたら、大変なことになると思いました。それに、もし見つからなかったら冬には死んでしまうと思いました。

ニシキヘビといえば、私も苦い経験があるからです。それは脱走事件とは関係ないのですが、珍しいニシキヘビのハンストだったのです。私が飼育していたニシキヘビも体長4.5メートル、体重40kgもありました。動物園で飼育して4年目になる一番元気の良かったときでした。このニシキヘビは1回の餌の量は、にわとり6羽それにウサギ2頭を生きたままペロリと丸呑みしてしまう大食漢でした。そのヘビがある日突然に餌を食べなくなったのです、担当者が心配して私のところに報告に来ました。ただ、ニシキヘビの餌は月に1回食べさせればこと足りるのです。だから私も「1回ぐらい食べなくても死ぬことは無い心配いらないよ。」と担当者を慰めました。ところがどうしたことか。翌月も次の月もいくら餌を入れても何が気に入らないのか食べようとしません。やがて彼らが一番活動する暑い夏がやって来ました。それでも断食は続いたままでした。内臓が悪いのだろう。獣医と相談しましたが、ヘビの診察は

そう簡単にはいかないのです。哺乳類のように体温を測ったり、触診したりするわけにもいかず、おまけに原因がわからないので、薬を飲ませることも出来ません。ただ見守るしかなかったのです。ヘビはゆっくりと室内を回り、時折水槽に浸かるぐらいで、あまり動こうともしませんでした。やがて、秋が過ぎ、ヘビには厳しい冬がやって来ました。体も目立ってやせ細り、色つやも悪く、もうこのままでは死んでしまうのではないかと思いました。私はそんなヘビを見る度に、そこまで頑固にしなくてもいいじゃないか、いい加減に餌を食べてくれよと、ヘビの好みそうな動物を探しては与えてみました。でもやっぱり見向きもしないで、ハンストは続きました。もうこうなったら、いつまで生きるか根比べと思いました。すでに餌を食べなくなって9ヶ月は過ぎ、やがて春がやって来ました。そんなある日の朝、にこにこしながら担当者が事務所に飛び込んで来ました。ニシキヘビが餌を食べたと報告でした、やっと食欲が出たのです。なんと312日の記録でした。日本の動物園でも2番目に長いハンスト記録となりました。それにしても、一年近くも良くなにも食べずに生きられたものだと驚かされました。その後、食欲も戻り元気な姿になってくれました。



竹下 完

「ハッピーの陰謀!？」

郡 健一郎

動物園で飼育している雄のオランウータン「ハッピー」が、約5年前から隣の9頭のチンパンジーを収容している檻に自分の餌を投げ込むというとても珍しい行動をみせるようになりました。投げ込む餌は主に野菜類などでハッピーがあまり好まない物です。チンパンジーとオランウータンの檻の間は1.5mありそのスペースに餌をばらまきます。最近によくチンパンジーがハッピーに餌を催促する(手を差し出すなど)様子が見られるようになりましたが、ハッピーの気分次第なので、催促が無視されることも多々あります。ただ9頭の群れのボス「マリオ」が催促すると高確率で餌を

ばらまきます。ハッピーにとってマリオは特別な個体ようです。オランウータンのオスは野生では群れをつくらず単独で過ごしているといわれています。しかし、このハッピーの行動を見ると、仲良くしたい個体とそうでもない個体を区別して対応を変えていて、群れ生活で重要な駆け引きする能力は持っている可能性があります。



動物しつもん箱



【質問】象の鼻はどうして長いの？

(宮崎市 Hさん)

【答え】象の体はとても大きく、しゃがんで水を飲んだり餌を食べたりするのに疲れてしまうので、しゃがまなくてもいいように鼻が長くなったと考えられています。他の動物とは異なり、象の鼻には骨がありません。代わりに約40,000個もの筋肉が鼻の管(空気の通り道)の周りを取り囲んでいます。この多くの筋肉のおかげで重いものでも鼻でつかんで持ち上げることができるのです。また、鼻の先にある1つもしくは2つの突起を器用に使って餌をつかんで口の中に運んでいるのです。

(山本 達哉)

【質問】キツツキは木を叩いて、いったい何をしているの？

(宮崎市 Dさん)

【答え】キツツキが木を叩く理由は主に①巣穴をつくるため ②鳴き声の代わりに遠くにいる仲間とコミュニケーションをとるため ③木の中に隠れている虫を食べるためです。コミュニケーションをとるのには縄張りの主張や異性に対する求愛行動、巣穴で待つこともたちへの連絡など様々な目的があります。また、木の中の虫を食べると言っても大きな幼虫などではなく、意外にも彼らは小さなアリを食べているのです。

(山本 達哉)

三戸先生の思い出



1984年、幸島にて

「よくきなさったね、昼ごはんを食べにくるといいわ」。これは、三戸先生が私にかけてくれた言葉の中で、一番強く記憶に残っている言葉です。大学院修士課程1年の中頃、はじめて幸島に渡って以来、十数年も通い続けましたが、三戸先生は、いつも同じ言葉をかけ、親身になって私たち若い研究者の面倒を見て下さいました。また、会うたびに、幸島や、幸島の歴史、研究者のこと、サルの個体識別の方法、夫々のサルの性格、サルの餌、植物のこと。実にいろいろなことを話して下さいました。

このようなやさしさの反面、バブル期に、幸島の民間のリゾート会社への売却話が出た時、断固として市や国に抗議をし続けた厳しい姿勢。また串間原発の計画に対して様々なアイデアを出して反対し続けたこと等、強い反骨精神の持ち主でもありました。やさしさと、厳しさ、三戸先生は地元の小学校で教鞭をとっていましたが、その教育者としての生き方がよく表れていると思います。

先生は若い頃からずっと、お父さんの冠地さんとともに、京都大学の研究者たちのお手伝いをして来ました。小学校に勤めている期間にも、休みの日には必ずボートに乗って幸島に渡ってきていました。教室で子供たちを教えている間も、幸島のサルのことが気になってしょうがなかったのだと思います。そのためか、教員を退職後、京都大学霊長類研究所の嘱託職員とな

ってからは、波さえなければ毎日といってよいくらい、サルの観察来られていました。この嘱託の時期が、三戸先生の人生の中で最も楽しい時代ではなかったかと思います。

当然、三戸先生の鋭い観察眼による最大の成果は、イモ洗いの行動を最初に見つけたことです。私は、どうしてもその行動を見つけた瞬間の記録を見たいと思い、先生にその頃の野帳を探してほしいと頼みました。しばらくして電話があり、「押入れの中に、その時のノートだけが偶然に残っていました。先生に差し上げます」との知らせがあったのです。これは県民の宝で、永久に保存しなければならないと思い、ちょうど改装中の宮崎県立総合博物館に展示してもらうための計画を立てました。今博物館の幸島のサルコーナーに広げられているのが、そのノートです。皆さんも、ぜひ、一度ご覧になっていただきたいと思います。

幸島が今の形で残されていること。また動物も文化的な行動をする能力をもっているという最初の発見の栄誉が宮崎県の幸島にあることなど、三戸先生の業績は図り知れません。三戸先生、いつまでも天国から幸島を見護っていてください。

岩本 俊孝

『ブッポウソウ』

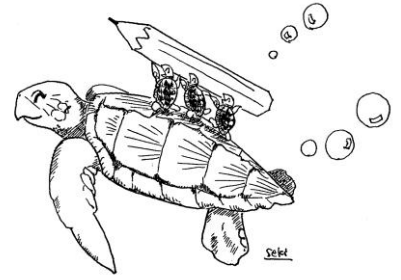


ブッポウソウ

(ブッポウソウ目ブッポウソウ科)

全長約 30cm。雌雄同色。全身金属光沢のある青色で、光によっては緑色にも見えます。初列風切に青味のある白斑があり飛翔時には目立ちます。尾羽は黒色。嘴と脚は赤橙色です。飛翔は巧みで、長めの翼をしなやかに羽ばたいて、旋回や急降下を行います。オーストラリアからアジア南部、中国などに分布し、日本には夏鳥として渡来し平地から低山の林、湖沼や溪流と接する林で生活します。樹上生活が主で一定の休息場と採食場をもち、太くて大きな嘴を開き、飛んでいる大型昆虫類を捕食します。昭和 11 年までこの鳥が「仏・法・僧（ブッ・ポウ・ソウ）」と鳴くと信じられていましたが、本当はゲッ・ゲゲゲと濁った声でしか鳴きません。営巣にはムササビやキツツキ類の古巣等の樹洞を好んで利用しますが、橋梁などの建造物の隙間もよく利用しています。県の RDB では準絶滅危惧種に指定され、重要度は B ランクになっています。県内では高千穂町の橋梁や西米良村児原稻荷下の橋、木城町川原橋、野尻町の橋梁などで記録があります。宮崎県高原町のブッポウソウ繁殖地が天然記念物に指定されていますが、現在は全く繁殖していません。

中村 豊

保護
活動

浜脇 幸一

ウミガメ調査に参加して、早いもので 10 年になります。

調査ヶ所、内容共に変わりませんが、確実に増えたと感じる戻りの数と移植数。毎年削られていく砂浜を見ると、仕方ないと諦めつつ、これから先もウミガメ保護の為ガンバっていかねばと思っています。

昨年は孵化調査の様子を見学させていただく機会があり、息子の通う保育園の園児、保護者を連れて参加しました。

親は小豆野さんの説明を聞き、ウミガメの現状を知って驚かれていました。子どもたちは初めて見る子ガメに興奮し、「ちゃんと説明きいたんか?」と思いつつ、子ガメを見送り、無事解散しました。

あくる日、保育園に行くと数人の子どもたちが「大きくなったらウミガメを守るね!!」と言ってきました。子どもの言うこと、あまり期待はできませんが、こうやって次の世代へと引き継いでいくのも保護活動だなあ〜と。少し大きさが感じました。

小豆野さん、ありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

次は、外村 浩幸さんをお願いします。

宮崎の美しい大自然と ウミガメを守る皆様にお願い

宮崎のウミガメは悲しんでいます

宮崎には青島から高鍋町まで美しい砂浜と松林が続いていました。そこには毎年沢山のウミガメが上陸し産卵していました。ところが1980年頃になると観光開発を中心に空港の拡張問題や、大型港湾建設など海岸は大きく変遷していきました。同時に豊だった自然は破壊され、美しい海岸の侵食も進んで来ました。

でも今ならまだ大丈夫です。どうか皆さんのお力を貸して下さい。

賛助会員を募集しています

NPO 法人宮崎野生動物研究会は全国の多くの会員の皆さんによって支えられています。活動趣旨にご賛同いただける皆様は、会員としてご参加下さい。

個人会員・・・1000 円/年

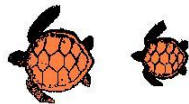
団体会員・・・5000 円/年

会員特典として

- ① 機関誌「わいるどらいる」〈年4回発行〉送付
- ② ウミガメ調査に参加〈希望者のみ〉
- ③ 講演などのご招待



会員のページ



○アカウミガメの観察会・仔ガメの孵化の観察会・海岸清掃

野生研では毎年上記の行事を開催してきましたが、上陸の条件、産卵の日程などなどは先に予定していても天候などの条件により、せっかくお集まりいただいても、その日になかなか出合わないことが多く、皆さんにはご迷惑かけています。そこで、今年はウミガメの観察会に参加希望の方は事前の予約をお願いします。

毎日調査している調査員と一緒に参加してもらうなど検討しています。

参加希望者は竹下（0985-25-7585）まで申し込んでください。こちらから日程など直接ご連絡致します。

○宮崎のウミガメ写真展

日時：平成24年6月1日～6月30日（月・火曜日 休館日） 9：00～16：00

場所：平和台公園 はにわ館

主催：NPO 法人宮崎野生動物研究会

新会員の紹介（敬称略）

正会員：安田 雅俊・西 邦雄・江藤 雅一・外村 浩幸・保田 昌宏・小沢 浩二

賛助会員：松田 亜紀・宮本 恵・古田 琴

野生研のあしあと

- 2/29 研修所荷物を西都市の児玉邸に移動
3/3 研修所荷物最終片付け
(竹下・児玉・山田・有田・藤本・長谷)
3/10 国土交通省が動物園前の海岸でサンドバック工法の現地見学会を実施
3/15 わいるどらいふ 26号発行
3/29 野生研3月例会
(東大宮地区社協会議室)
3/29 野生研の研修所を家主さんに引き渡し、長い間有り難うございました。
4/21 野生研4月例会 (東大宮地区社協会議室)
4/23 県自然環境課と24年度宮崎県野生動物調査についての打ち合わせ(竹下・児玉)
4/26 宮崎市文化課と24年度アカウミガメ調査契約書を締結した。
4/28 大炊田海岸を視察する。浜堤の養浜が有りウミガメ上陸には昨年より良いと思う
4/29 宮崎港で海水温の測定を行った。
外気温 24℃、海水温 20℃
5/7 宮崎港で海水温測定
外気温 28℃、海水温 22℃
5/8 明神山海岸で初上陸
5/9 24年度カモシカ調査、県庁で打ち合わせを行う
5/10 こどものくに海岸に初上陸3頭
5/15 野生研5月例会 24年度ウミガメ調査の準備、「わいるどら27号」の編集会議
5/16 国土交通省依頼で大炊田海岸と明神山海岸の養浜した浜堤の状況調査をする。
補修工事9月末以降にできるようにお願いした
5/20 平成24年度ウミガメ調査開始

動物記録

- 3/15 県鳥コシジロヤマドリ。人工繁殖してきた10羽を宮崎市高岡町の鳥獣保護区に初放鳥
【朝日新聞】
3/19 アオウミガメ季節外れの産卵。昨年11月から屋久島永田浜で確認。「ラニーニャ」影響?
【毎日新聞】
4/1 幸島のサル寄り添い観察40年。冠地さん(京都大学職員)退職。【宮崎日日新聞】
4/8 芋洗う文化持つサル発見。三戸サツエさん死去97歳。【読売新聞】
4/12 細島港で、国の特定外来生物に指定されている毒グモ「ハイロゴケグモ」を確認。県内5例目。【宮崎日日新聞】
4/20 綾町。動植物調査し保護。綾生物多様性協議会を設置し生物多様性地域戦略を策定へ。
【宮崎日日新聞】
4/21 延岡市鯛名町の海岸で命の営み。クサフグの産卵始まる。【夕刊デیلیー】
4/23 新潟・佐渡で、放鳥トキ初のひな。野生で36年ぶり。【宮崎日日新聞】
4/24 高速船トッピーに鯨が衝突。種子島沖に鯨の漂流死骸。ザトウクジラか【南日本新聞】
5/3 「九州クマ絶滅」覆る?25年ぶり大分、宮崎県境の祖母山一帯でNGO・日本クマネットワーク生息調査へ。【朝日新聞】
5/4 小林出の山ホテル恋まつり。幼虫が減少したため、3年連続で中止決定。鑑賞は可能。
【宮崎日日新聞】
5/11 ラムサール条約に荒尾干潟など9湿地が登録。
【西日本新聞】



宮崎野生動物研究会通信「わいるどらいふ」 No.27 2012年6月15日発行

特定非営利活動法人

宮崎野生動物研究会 (Miyazaki Wildlife Research Group)

代表 竹下 完

880-0825 宮崎市東大宮3丁目9-11

Tel 0985-25-7585 Fax 0985-25-7585

Email: kan-take@miyazaki-catv.ne.jp http://www.m-yaseiken.org



テイカカズラ

「わいるどらいふ」の無断引用、転載、複製を禁止します。